

研究種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究助成金	<input type="checkbox"/> 研究成果刊行助成金
	<input type="checkbox"/> 21 世紀研究開発奨励金 (共同研究助成金)	<input checked="" type="checkbox"/> 21 世紀教育開発奨励金 (教育推進研究助成金)
研究課題名	近畿大学の大学アーカイヴズ構築に関する基礎的研究	
研究者所属・氏名	研究代表者：経営学部・教授・増田大三 共同研究者：法学部・准教授・上崎哉、経済学部・准教授・酒匂康裕（平成 24 年度からは文芸学部所属）、 経営学部・教授・稲葉浩幸、経営学部・准教授・藪下信幸、文芸学部・准教授・鈴木拓也（平成 24 年度 からは教授）、短期大学部・教授・田窪直規、教職教育部・准教授・富岡勝	

## 1. 研究目的・内容

本学で大学アーカイヴズ設置構想が求められた際に、基礎的な知見を提供できるように、①他大学の事例調査、②公開研究会の開催などを通じて、「大学アーカイヴズとはどのようなものか」「各大学において大学アーカイヴズは、どのような意義をもち、どのような役割を果たしているか」を明らかにすること。

## 2. 研究経過及び成果

【研究会の開催】 第 1 回（平成 23 年 5 月 26 日）、第 2 回（6 月 30 日）、第 3 回（7 月 9 日）、第 4 回（11 月 1 日）、第 5 回（12 月 22 日）、第 6 回（平成 24 年 1 月 24 日）の 6 回にわたる研究会を通じて、先行研究の検討、他大学事例調査の準備と振り返り、公開研究会（全学 F D 研究集会として実施）の準備と振り返り、研究報告冊子の編集を行った。

【先行研究の検討】 『日本の大学アーカイヴズ』（全国大学史資料協議会編）の検討を行い、2005 年頃の時点での各大学の大学アーカイヴズの活動や学内での存在意義などについて検討した。

【他大学の事例調査】 平成 23 年 8 月から 9 月にかけて、国内 11 大学の大学アーカイヴズ（大阪大学文書館設置準備室、学習院アーカイヴズ、九州大学大学文書館、京都大学大学文書館、同志社社史資料センター、東北大学史料館、名古屋大学大学文書資料室、南山大学史料室、広島大学文書館、明治大学史資料センター、立教学院史資料センター）を訪問して、その組織・活動・意義・役割などについて担当者にインタビューを実施した。また関連調査として、九州工業大学明専アーカイヴおよび、韓国の延世大学記録保存所と慶熙大学慶熙記録館へも訪問調査を行った（韓国調査の費用は、海外旅費であるため残念ながら学内研究助成の対象にはならなかったが、本共同研究の一環として調査を実施した）。

【公開研究会（全学 F D 研究集会）】 公開研究会を全学 F D 研究集会として、平成 23 年 12 月 17 日に「大学改革における大学アーカイヴズの役割—「大学」の基礎条件の一つとして」というテーマによる立教学院本部調査役・東京大学名誉教授の寺崎昌男氏による講演と、「学習院アーカイヴズの活動と課題—私大アーカイヴズの一事例—」というテーマによる学習院アーカイヴズの桑尾光太郎氏による講演を行った。

【研究報告冊子の作成】 上記の活動によって得られた知見をまとめた報告冊子（A4 サイズ、158 頁）を平成 24 年 2 月に作成し、学内各部署・他大学アーカイヴズ・関係学会等に送付した。

【成果】 上記の活動によって、各大学の大学アーカイヴズが、社会的な説明責任を果たす役割、大学事務の効率化を進める役割、広報活動を支える役割、史料にもとづいて大学のアイデンティティ構築に寄与する役割、自校史教育を推進する役割など、さまざまな重要な役割を果たしていることが明らかになった。また、訪問調査によって各大学アーカイヴズについての最新情報を直接聞き、その結果を報告冊子にまとめることができた。さらに、大学の学部評価において、大学教育の内部質保証システムの一環として大学アーカイヴズが重視される動向にあることも明らかになった。そして、これらの知見を全学 F D 研究集会や研究報告冊子によって、学内で共有化することができた。

### 3. 本研究と関連した今後の研究計画

平成 23 年度の研究を踏まえた平成 24 年度の研究として、「近畿大学の大学アーカイブズと学内資料の収集・保存に関する基礎的研究」を開始している。

この平成 24 年度研究では、大学アーカイブズ構築の準備として、本学の歴史に関連する学内資料保存に関する課題を、大学の文書管理の問題と関連させながら全学的に提起することを目的に、学内の事務職員との連携を進めながら、資料保存の現況調査や、大学文書管理に関する全学的公開研究会を実施する。また、大学文書管理に取り組んだ他大学への訪問調査などもおこなっていく。

### 4. 成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)
研究代表者増田大三『「近畿大学の大学アーカイブズ構築に関する基礎的研究」研究報告書』(A4判、158頁)	著書	平成 24 年 2 月 15 日
全国大学史資料協議会西日本部会第 1 回研究会(於 大阪市立大学)	口頭発表	平成 24 年 5 月 29 日
全国大学史資料協議会西日本部会会報	雑誌	平成 25 年 5 月発行予定